

アクセス方法  
 <バス>  
 札幌から  
 中央バス札幌線「札幌ターミナル」  
 →「厚田支所」下車(約90分)  
 <車>  
 新千歳空港から  
 道央自動車道 千歳I.C.→伏古I.C.  
 →国道274号線→道道112号線→国道337号線  
 →道道508号線→国道231号線  
 →石狩市厚田(約1時間40分)

memo



小さな旅 ホームページ  
<http://nhk.jp/kotabi>

# 小さな旅

～こころのふるさとをみつめて～

コブック vol. 177

ニシン待つ浜  
 ～北海道 石狩市～

2015年2月22日(日) 放送



朝、港にやってきたのは移動販売車。1年を通して様々な魚が水揚げされる厚田の港で旬の魚を仕入れ、スーパ―や魚屋が近くないお年寄りの多い集落を1月から3月に産卵のために浜に帰ってきてきます。漁師は鮮なニシンを、集落のお年寄りたちは心待ちにしています。移動販売車は山の集落にもニシンを届けます。かつて浜の魚をかついた女性たちが、行商に通った所です。厚田の繁栄の象徴でもあるニシンは、人々に懐かしい気持ちを引き起こさせます。

## 魚み届ける移動販売車

旅の見どころ 3

古くからニシン漁で栄えた、北海道石狩市厚田。江戸時代にニシン漁は始まり、村はヤン衆と呼ばれる出稼ぎ労働者でにぎわいました。一時は、ほとんど取れなくなりましたが、近年ニシンが少しずつ戻り始め、浜にはかつての繁栄をしのばせる情景が広がります。「あい風」という冷たい北風が吹くなか、一家でニシン漁を営む漁師。ニシンを移動販売車で行商する男性や新たに漁を始めた若者など、厚田の浜に生きる人々の思いを訪ねます。



1月の平均気温は、氷点下4度。漁師たちは、しけの合間1月からの3月に産卵のために浜に帰ってきてきます。ニシンは網にかかったままの状態の水揚げされ、家族や「出面さん」と呼ばれる地元の人たちが、網から外していきまます。多いときには1日に4回も沖に出るニシン漁。網は次の漁に使うため、作業は時間とたたかいです。

## 敵のニシン漁

旅の見どころ 2

旅の見どころ 1

## ニシン帰る浜 石狩市厚田

季節風の影響で大荒れの日が続く1月、厚田の港をにぎわせるのはニシン漁。全国有数の水揚げを誇り、1月から3月にかけて漁が行われます。厚田のニシン漁の歴史は古く、明治以降ニシン漁の拠点として栄えました。最盛期には3000人もの出稼ぎ漁師が働くほどでしたが、昭和30年以降、ニシンの群れはほとんど姿を消します。漁師の多くは厚田を離れ、残った者も冬場は出稼ぎに出ることを余儀なくされました。近年、稚魚の放流が行われる中、少しずつニシンが浜に帰ってくるようになってきました。

